感染症情報　５月２３日～２９日

府下小児科１９９医療機関（堺市１９）から

①感染性胃腸炎	１６１１例	（堺市　５７例）
②溶連菌感染症	６３５例	（堺市　３０例）
③おたふくかぜ	２５５例	（堺市　２１例）
④咽頭結膜熱	１７４例	（堺市　８例）
⑤突発性発疹	１４９例	（堺市　２例）

が報告された。

感染症は全体として前週から７％増加し、上位の順位は変わらず第１位が感染性胃腸炎、第２位が溶連菌感染症、第３位がおたふくかぜとなっている。　溶連菌感染症は前週より１％ではあるが、増加傾向が続いている。　リウマチ熱や腎炎の発症を予防するため、抗生剤の１０日間服用が推奨されている。　おたふくかぜが全国的にも増加傾向にあり、泉北でも流行している園がある。髄膜炎の合併が多く、１０００人に一人程度に難聴を合併する。任意接種ではあるが２回のワクチン接種をしておきたい。　夏型感染症の咽頭結膜熱（プール熱）も２２％増加して第４位に入り、同じアデノウイルスによる扁桃炎は高熱が長引くケースも多い。全国的にも増加傾向であるので、注意したい。　同じく夏型感染症のヘルパンギーナが堺市内の一部で流行が始まっている。

はしかと風疹の報告はなかった。